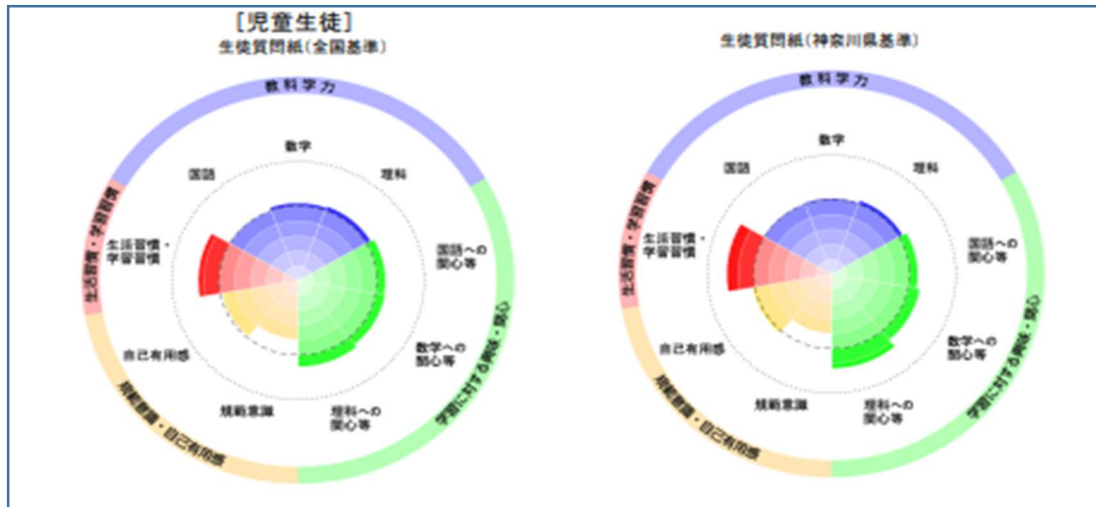


# 令和4年度 全国学力・学習状況調査より



## (1) 生活意識調査

### 【分析】

指示されたことや目標を提示されたことに対しては、着実な取り組みができる。生活そのものも安定して、朝食を毎日食べている生徒が全国平均を上回っている。その反面、自ら目標を決めて取り組むことや人と協調性をもって生活することが苦手な傾向があり、これは人前で発表などの表現活動についての数値を見ても同様のことがわかる。毎日の生活からは、ゲームをする時間が全国平均よりも長く、自宅で多くの時間を過ごしていることがわかる。

よって、「将来の夢や目標をもっていること」や「自分でやり遂げる姿勢」については、意欲的な部分が不足していて、自己肯定感が低い結果となっている。

### 【課題に対する改善の手立て】

豊かな生活の将来を導くためにも、強く逞しい人づくりに励むことが必要である。そのためにも人との関わり方を覚え、さらには周りの人を巻き込む表現力を身につける必要がある。

周りの人と手を取り合いながら、一緒になって問題解決に努めて行く素晴らしさを体感し、生活する楽しさや、喜び、やりがいに気付かせることが不可欠となる。その一環として、自然に触れる活動的なプログラムを用意して、屋外での活動を充実することに努めていきたい。

そして、各教科、学級活動、学校行事などを通じて、交流活動を活性化して「人が困っているときに助ける行動力」や「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していく気持ち」を育成していきたい。

## (2) 国語

### 【分析】

全国・全県の平均とおおむね同じ結果である。

思考・判断・表現の観点のうち、「話すこと・聞くこと・読むこと」が、全国・全県を上回った。しかし、同じ観点の中でも「書くこと」について無解答が 20%を超える問いが 1 問あった。

知識・技能の観点の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」は、全国を平均 2 ポイント下回っている。語句の使い方や表現技法などの知識の定着についても課題がある。

### 【課題に対する改善の手立て】

教科書の文章に興味を持ち、考えたり、意見を持ったりすることはできている。問いかければ自分の考えを伝えることができる生徒が多い。しかし、いざ自分の考えを文章表現にすることが難しく感じている生徒も多い。漢字ではなく、平仮名を多用してしまう生徒もいる。適切に語句を使い、構成や論理の展開を工夫して書く力をつけたい。文章表現を繰り返し練習することで書く力をさらに高めたい。

## (3) 数学

### 【分析】

領域別で考察すると、「図形」「関数」「データの活用」の分野では、全国平均及び神奈川県を平均を上回っていた。一方で、「数と式」領域では、どちらの平均にも及ばないという結果であった。特に、素因数分解に対する知識・技能について課題があることが明らかとなった。また、事柄が成り立つ理由を説明する問題に対して無答率が高く、説明をすることに対する苦手意識が見られる。

### 【課題に対する改善の手立て】

素因数分解など、特定の内容の知識・技能に関しては、繰り返し問題演習を行うことを通して、知識・技能の定着を図る。また、事柄が成り立つ理由を説明することに対する苦手意識を克服するために、授業で説明する機会を多く設ける。その際には、穴埋め形式からはじめ、説明に必要な全体の流れの把握を行ってから自由記述で解答を行うなど、段階的に指導を行う。

## (4) 理科

### 【分析】

領域別で分析すると「エネルギー」・「生命」・「地球」で正答率が高く、問題によっては全国平均より 15%以上上回っているものもあった。一方で、領域別で「粒子」の分野を問われた問題では、全国平均の正答率に達せず、実際には見るできない原子や分子の世界の理解は深まっていないようである。

### 【課題に対する改善の手立て】

実際には見るできない粒子の領域が苦手な生徒が多い。特に、分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表す問題では、全国平均正答率を下回っていた。

日々の学習の中で、見えない世界を視覚的にとらえられるように映像教材の活用や、化学反応式を立てる演習の時間をとるなどして、基礎基本の定着に努めていきたい。